



あくさんぽ(^^)

まいど~VOL. 34 やっぱり近くの銭湯編

byあくたがわ

12月は家族で大阪にいる娘と神戸で合流して、ちょっとしたミニ旅行で散財したので、しばらくはお小遣いの節約にと、休みの日は家でおとなしくしてます。

なので最近の休日の楽しみは、夕方から近くのお風呂に行っています。以前に紹介したちどり湯もですが、ここ1ヶ月は楠木町の“泉湯”や宇品の“いなり湯”観音の“観音湯”と日替わりじゃなく週替わりで銭湯通いしています。なかでも“観音湯”は昭和のまま時間が止まったような空間でとても落ち着きます。450円で小さいけどミストサウナも電気風呂、ジェットバスまであるので行ったら1時間は超えるかも。めったに見れない白猫の番台さんに遭えたら、「なんかいいことがあるかも」と思えてくる。



1日なにもすることのない日は、朝から楽々園の“ほの湯”で夕方まで岩盤浴(▽)はよくあるあるですが、住宅街に溶け込む普通の銭湯は、これがまた違う良さがあります。家と違って少し熱めで、いつまでも冷めないたっぷりの湯船につかるあの気持ちよさは、なんとも気持ち良いものです。夕方の早い時間はまだ2~3人ほどしか人がいないので、気兼ねなくお風呂が楽しめます。

毎朝シャワー浴びて、夜は家の風呂に入るので、銭湯に行ったは、3回お風呂が楽しめます。寒い日は特にお風呂恋しくなりますよね、...

←時代を感じながら楽しんでいます。



社長の趣味より



「最近のキャンピングカー事情」

その③

公共交通機関利用の旅と違い、車で旅をするのは時間に制約がありません。そこに泊まるという機能が加われば、旅はさらに自由になります。好きな時に好きな場所へ行って、好きなだけ滞在できますね。

つまり、車中泊には地方へ人を移動させて活性化させる力があると思います。車に泊まれるなら公共交通機関のない、宿のない場所にも行けます。それに泊まれるならそこで働ける、暮らせるという事にもなってきます。

Wi-Fiさえあれば働ける人が増えている世の中で、車中で仕事をする人、さらにはそのまま車中で暮らそうという人が出てきてもおかしくない気がします。その人達があちこちを移動しながら暮らすとしたら、それによって地方は定住とは異なるものの、その地域に関心や愛着を持ち、関わってくれる人の数(関係人口)を増やせるのではないかと思います。

実際に茨城県つくば市で2019年3月に「VANLIFE(バンライフ)」をテーマにした「つくばVAN泊2019」というイベントが開催されました。

バンライフとはバンタイプの車で働き、暮らす人達やライフスタイルのことです。つくば市は「世界のあしたが見えるまち」を標榜していて、同イベントはこれからの生活、社会を考える為の実験の一つとして取り組んでいました。

つづ
諸永 雄三

